

感染症発生動向調査2018年

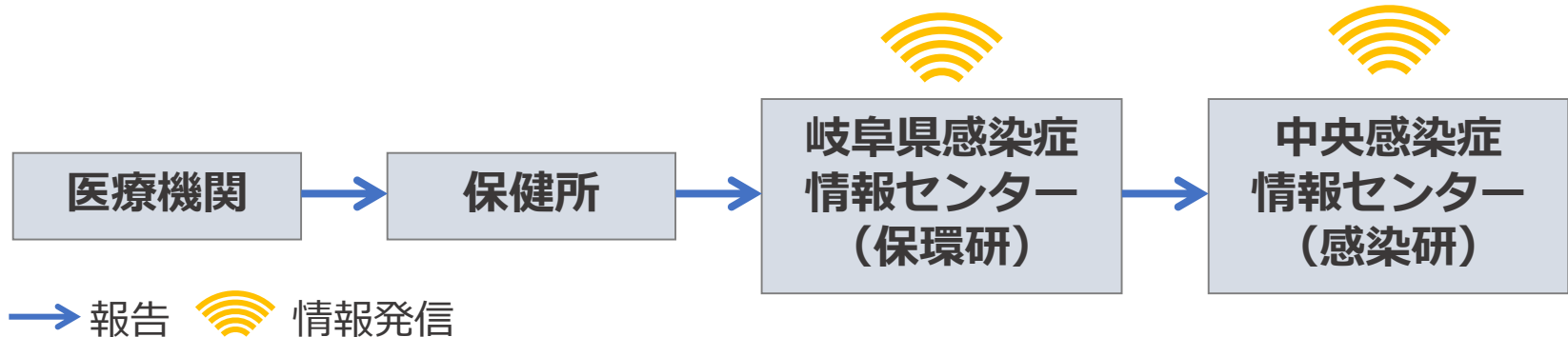
2019.2.20

岐阜県保健環境研究所

※2018年全国データは1月7日時点の速報値

感染症発生動向調査の概要

- 感染症法に基づく感染症サーベイランス
- 医師の届出に基づき、国内の感染症の動向を把握する
- 対象疾患（2018年12月31日時点）
 - 全数把握対象：89疾患 ... すべての医師が診断した患者を届出
 - 定点把握対象：26疾患 ... 指定した医療機関（定点）が週又は月ごとに届出
- 患者情報と病原体情報を収集・分析・提供



全数把握対象疾患（1～4類）

岐阜県の過去5年平均より多い

★人口当たり報告数が全国（2018年）より多い

◆ 年間報告数（）内は前年報告数

1類感染症		
報告なし		
2類感染症		
結核 ★	379	(448)
3類感染症		
細菌性赤痢	1	(2)
腸管出血性大腸菌感染症 ★	64	(101)
腸チフス ★	5	(1)
パラチフス ★	1	(-)

4類感染症		
E型肝炎	1	(1)
A型肝炎	4	(3)
つつが虫病 ★	13	(9)
デング熱 ★	5	(2)
レジオネラ症 ★	47	(33)

全数把握対象疾患（5類）

■ 岐阜県の過去5年平均より多い

★ 人口当たり報告数が全国（2018年）より多い

◆ 年間報告数 （）内は前年報告数

5類感染症

アメーバ赤痢 ★	23	(14)	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ★	8	(8)
ウイルス性肝炎	2	(4)	侵襲性肺炎球菌感染症	44	(33)
カバ ^h 耐性腸内細菌科 細菌感染症	19	(13)	水痘(入院例に限る)	7	(4)
急性弛緩性麻痺 ★	13	—	梅毒	77	(69)
急性脳炎	8	(6)	播種性クリプトコックス症★	4	(1)
クリプトスポリジウム症★	1	(-)	破傷風	2	(2)
劇症型溶血性インフルエンザ菌感染症★	11	(7)	百日咳	92	—
後天性免疫不全症候群 ★	23	(12)	風しん	10	(1)
ジアルジア症 ★	3	(-)	麻しん	1	(-)

定点把握対象疾患

- 過去5年と比較して患者報告数が目立って多い疾患なし
- 注目すべき動向を示した疾患

RSウイルス感染症

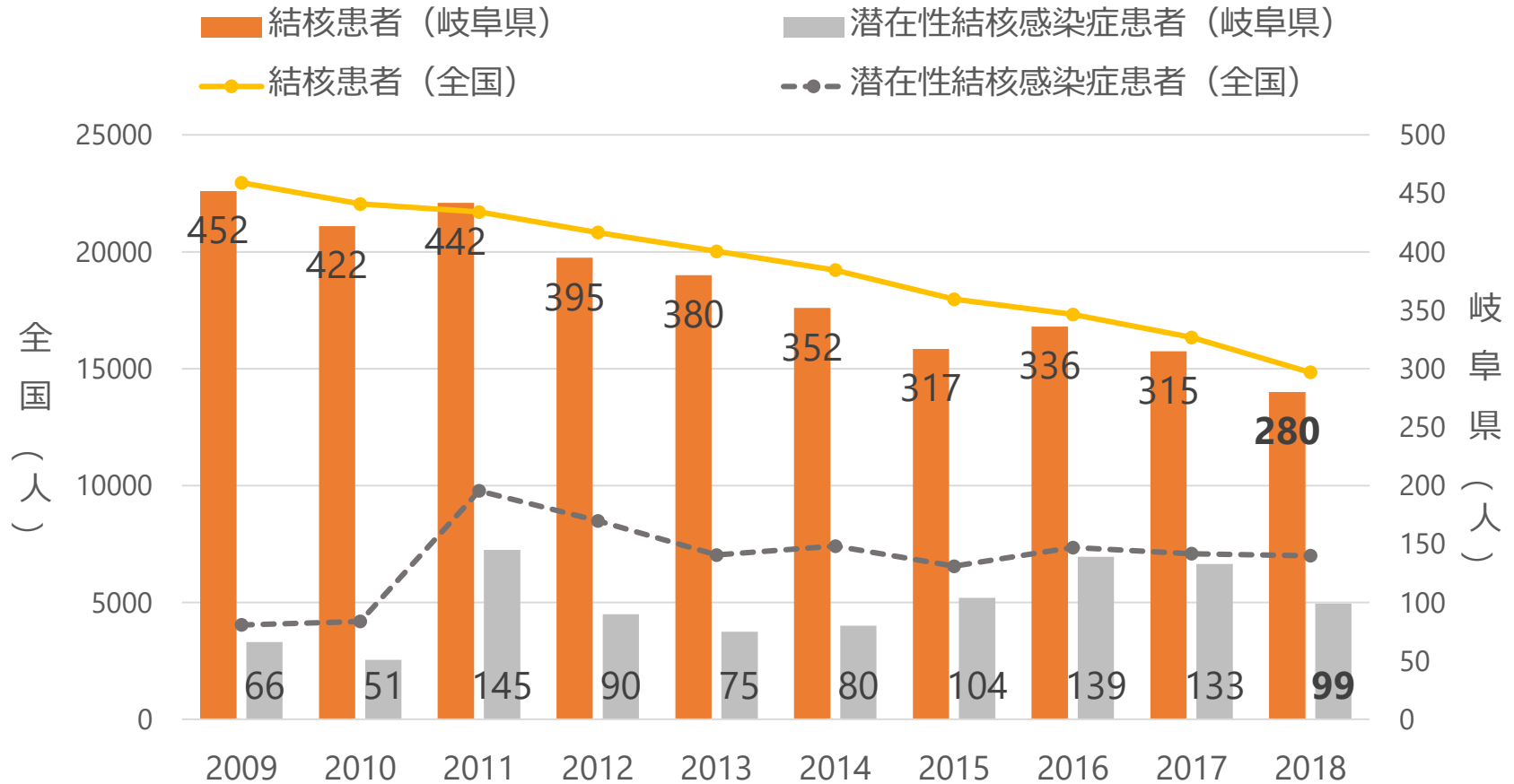
7月から増加し、9月中旬にピーク
2015年までは12月がピークであったのが、
2017年、2018年と流行時期が早まっている

伝染性紅斑

10月ごろから患者報告数が徐々に増加
→2019年さらに増えることが予想される

結核（2類）

◆ 患者報告数 年推移



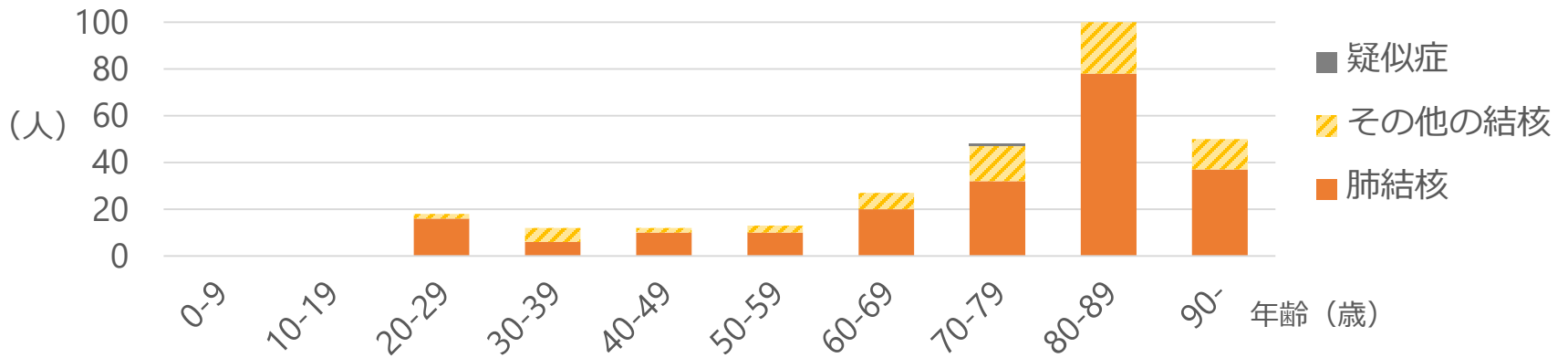
- 岐阜県の結核患者報告数は2015年以降減少傾向が鈍っていたが、2018年は前年の88%に減少

結核（2類）

◆ 年代別患者報告数（岐阜県2018年）

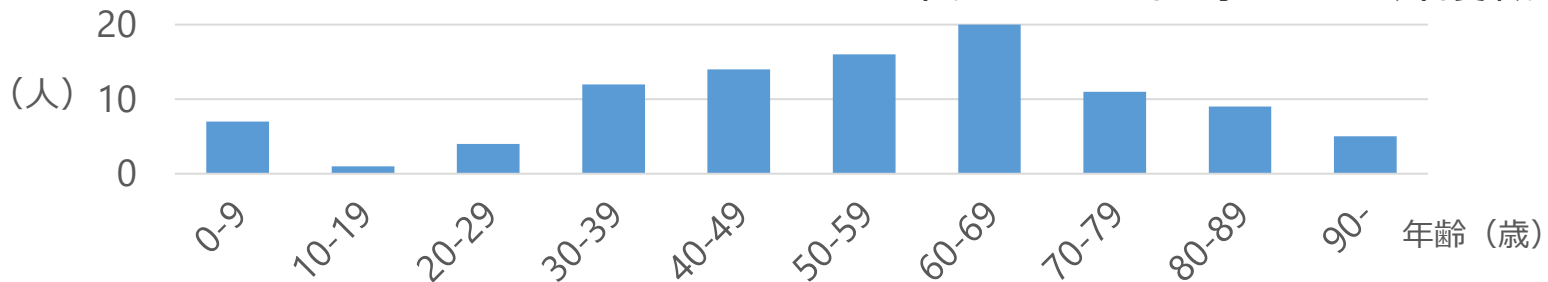
結核患者

- 高齢者の割合が高い（70歳以上：70%、80歳以上：54%）
- 20-30代の77%が外国人



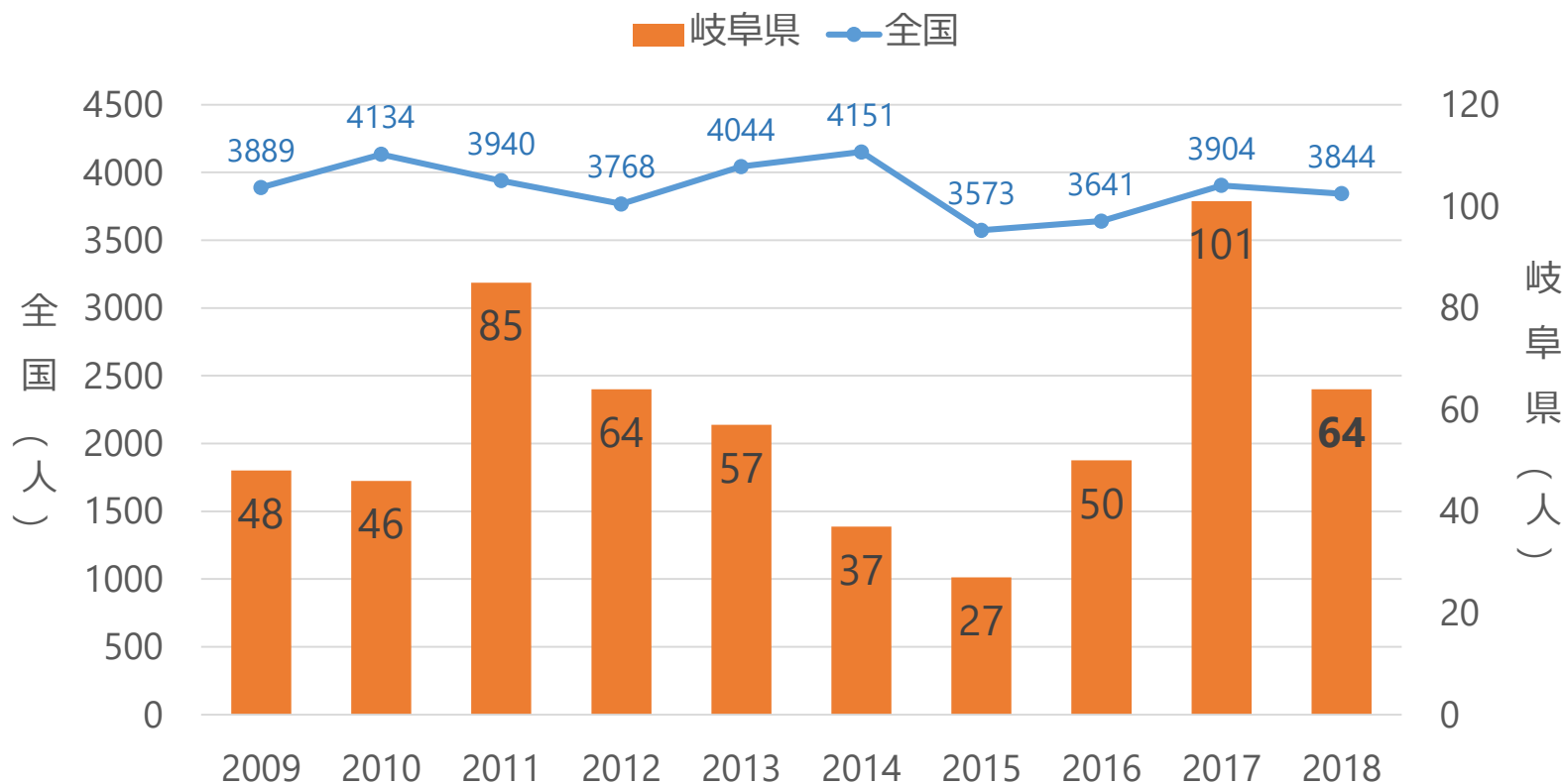
潜在性結核感染症患者

- 20-60代の45%が医療または介護職



腸管出血性大腸菌感染症（3類）

◆ 患者報告数 年推移



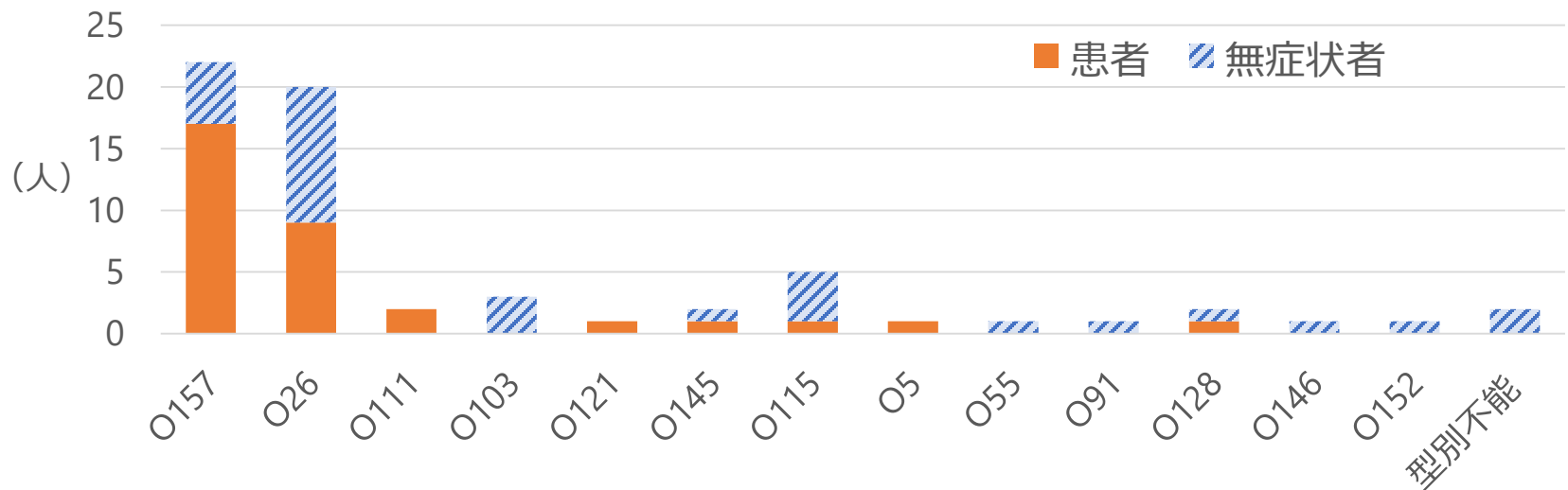
- 全国的には横ばいの推移
- 県内では2018年大きな集団事例なし

腸管出血性大腸菌感染症（3類）

2018年県内届出例の特徴

- 保育所等の集団事例なし
- O26・VT1による家族内感染事例が多数（4事例（2人/4人/5人/6人））
- O157はすべて単発事例または食中毒関連事例（家族内感染なし）
- 接触者の検便で異なる血清型の検出例あり（3例）
- 主要血清型以外に様々な血清型の報告あり

◆ 血清型別患者報告数（岐阜県2018年、n=64）



腸チフス（3類）

- 県内で2018年に報告された5例中4例は県内在住フィリピン人の親族同士
- 祝い事のため親族一同でフィリピンに帰省した際に感染
- **VFR** (visiting friends and relatives) 関連事例
 - ...日本に住む外国人が、友人や親類を訪ねるために母国へ渡航した際に感染して国内に持ち込むこと
 - ・ 近年、国内腸チフス患者のうち毎年一定数報告
 - ・ 一般旅行者より感染症に罹患するリスクが高い

<参考>

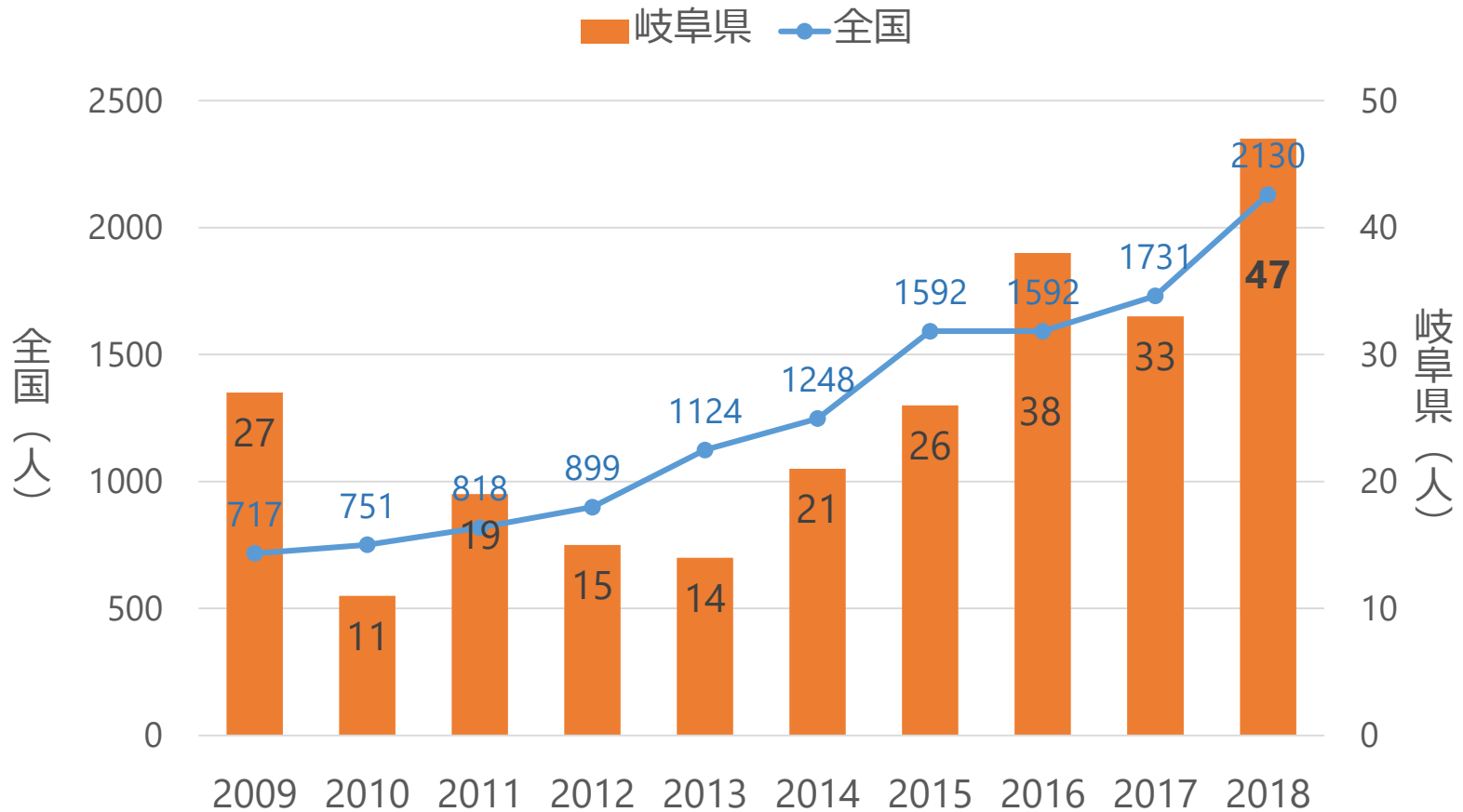
フィリピンに帰省した親族の腸チフス集積事例－岐阜県

IASR 2018年9月号

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/typhi-iasrd/8331-463d01.html>

レジオネラ症（4類）

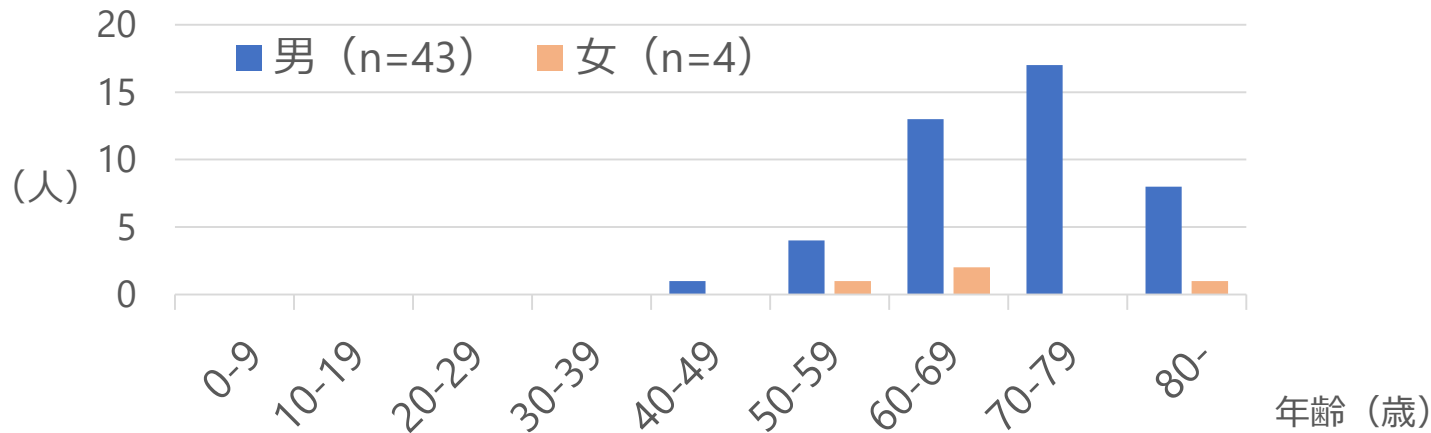
◆ 患者報告数 年推移



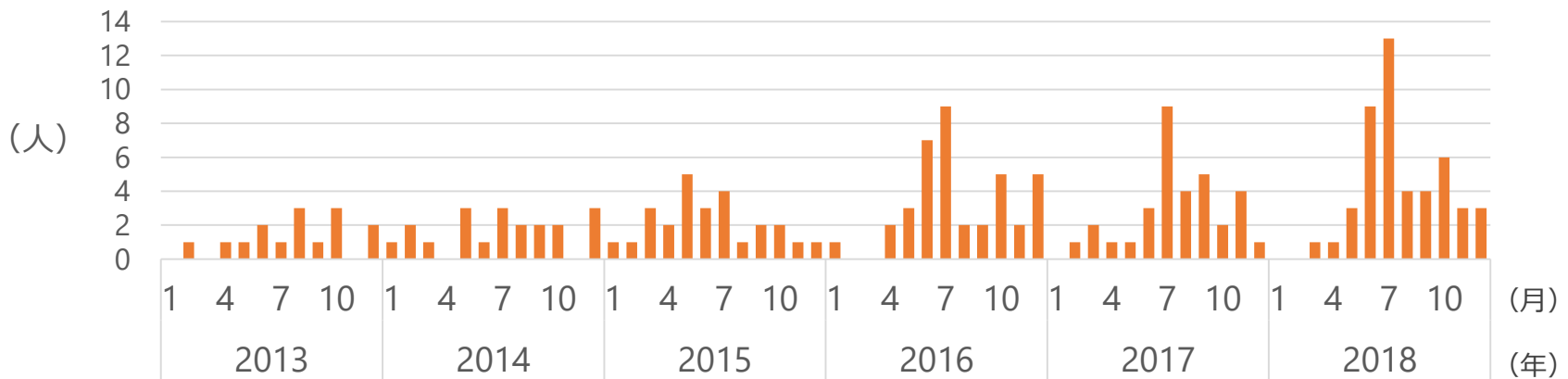
● 2013年ごろから全国的に増加傾向

レジオネラ症（4類）

◆ 性・年代別患者報告数（岐阜県2018年）



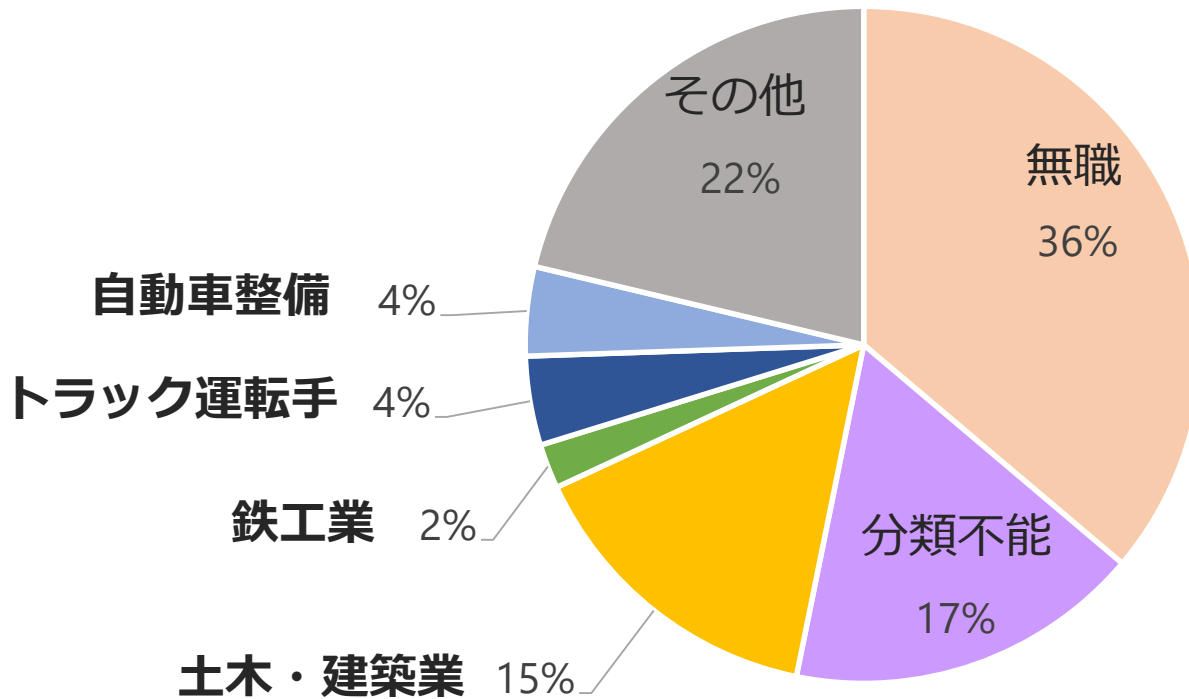
◆ 月別患者報告数（岐阜県）



● 近年季節性が明確になってきている

レジオネラ症（4類）

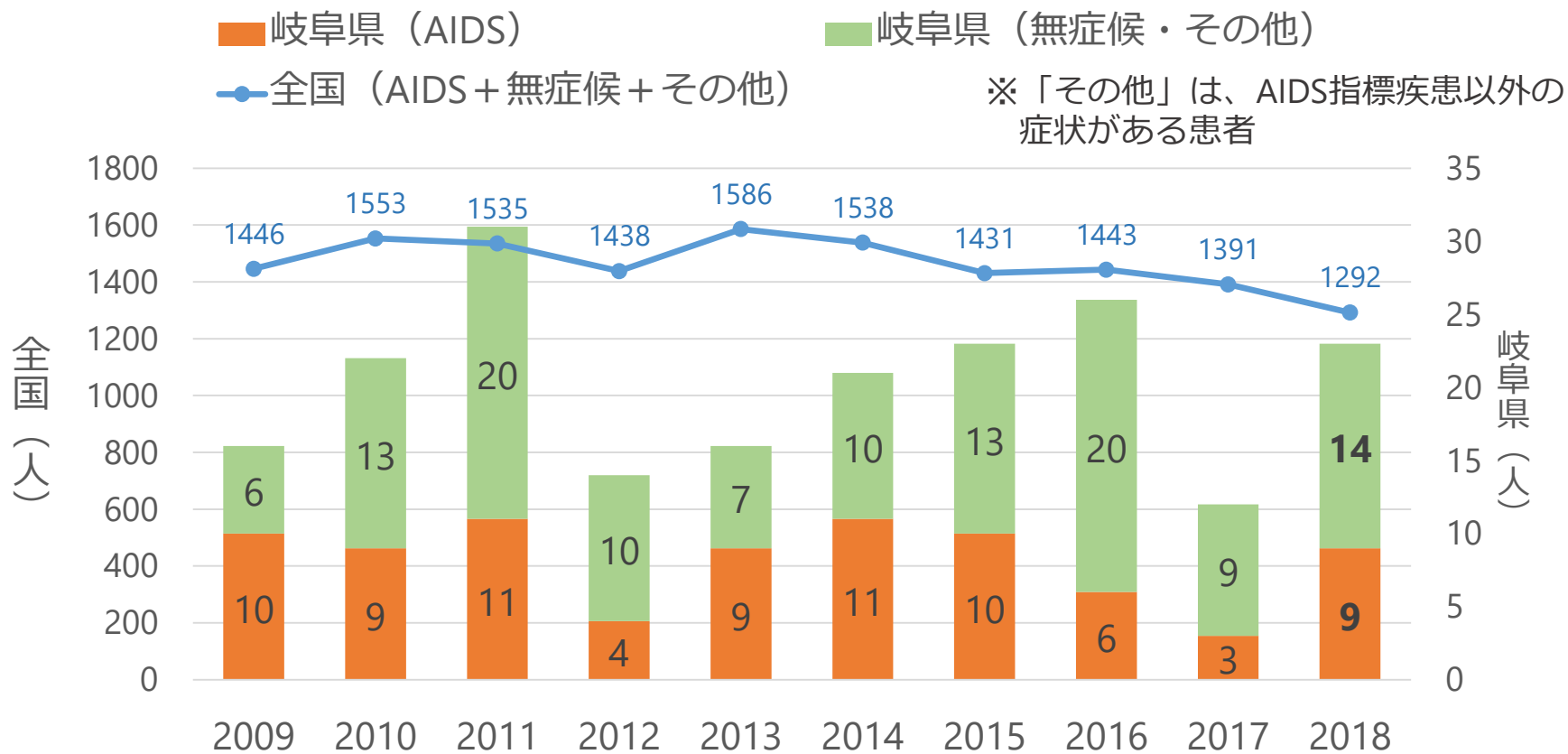
◆ 患者の職業内訳（岐阜県2018年、n=47）



- 全国的に建設業（土木・建築など）、運輸業（トラック運転手など）などが多い
→職業上の暴露の可能性

後天性免疫不全症候群（HIV/AIDS） （5類・全数）

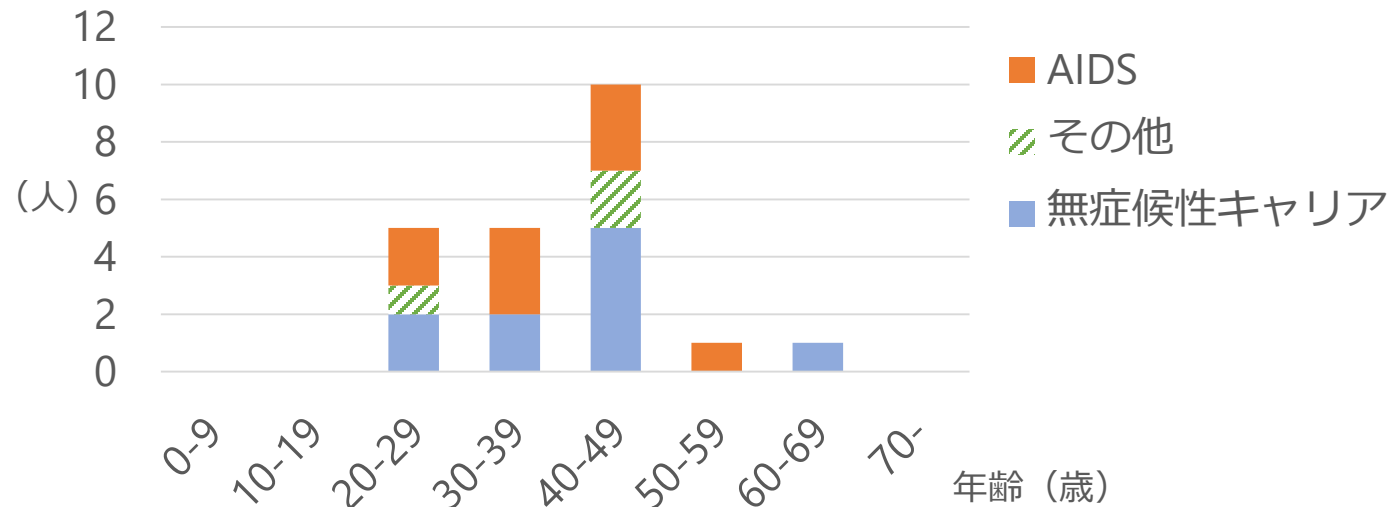
◆ 患者報告数 年推移



- 岐阜県は人口あたりの患者報告数が都道府県別でみると多く、“いきなりAIDS”（診断時にすでにAIDSを発症）の割合が全国平均より高い

後天性免疫不全症候群（HIV/AIDS） （5類・全数）

◆ 病型・年代別患者報告数（岐阜県2018年・男、n=22）



◆ 感染経路（岐阜県2018年）

男性 (n=22)

同性間性的接触...17 (77%)

異性間性的接触...3 (14%)

不明...2 (9%)

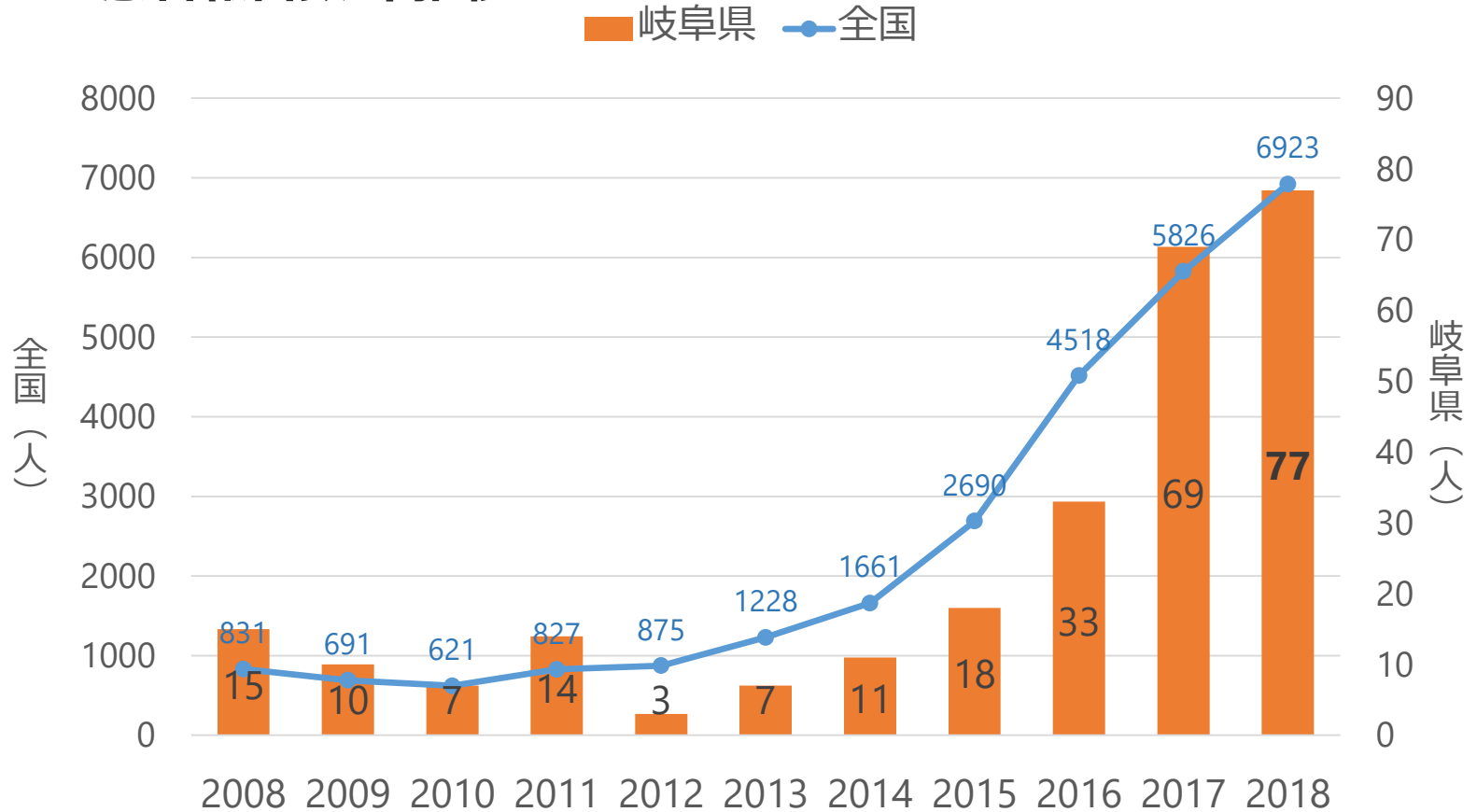
女性 (n=1)

異性間性的接触...1

- 依然として男性同性間の性的感染が多い

梅毒（5類・全数）

◆ 患者報告数 年推移

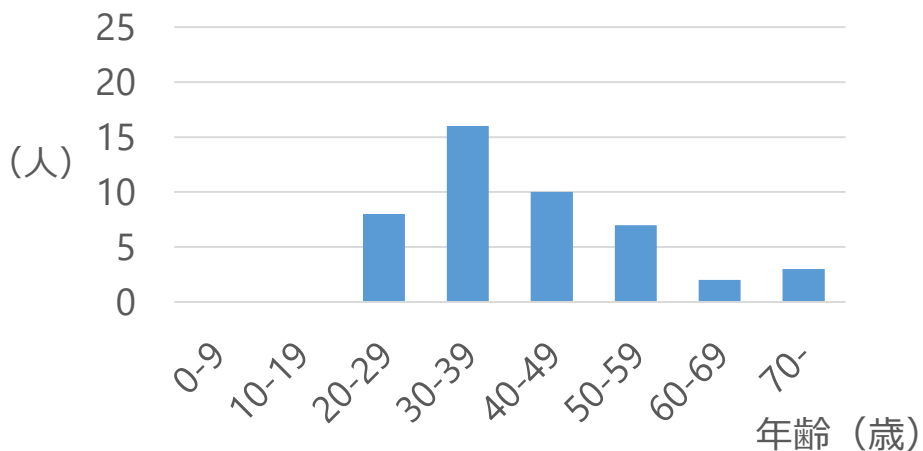


● 2013年ごろから全国的に増加傾向

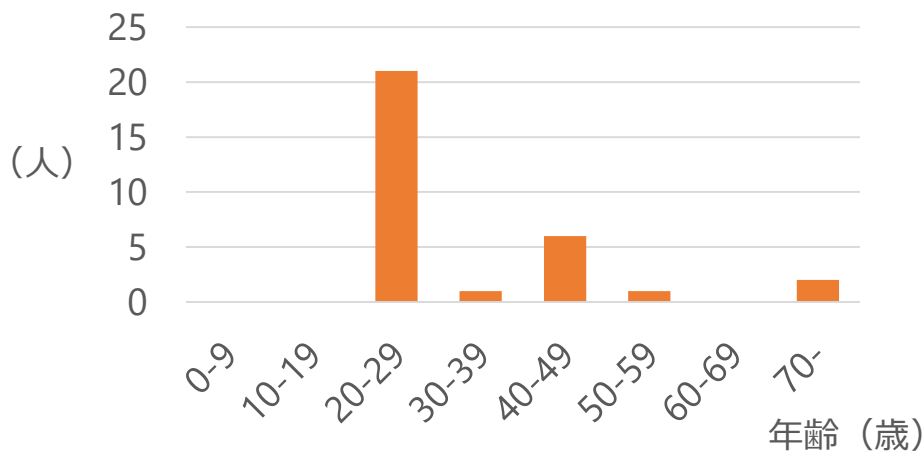
梅毒（5類・全数）

◆ 性・年代別患者報告数と感染経路（岐阜県2018年）

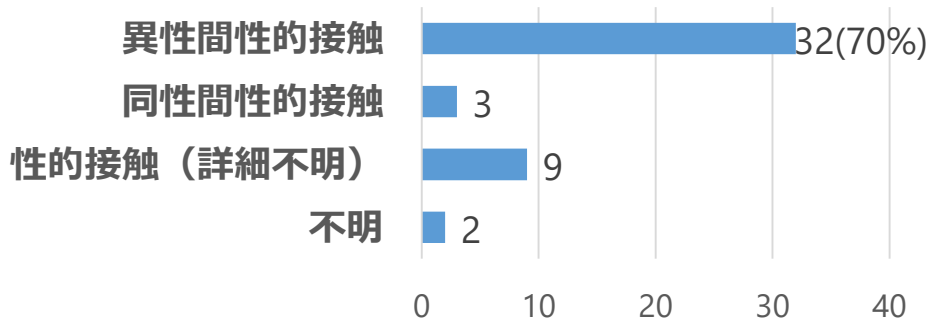
◇ 男性（n=46）



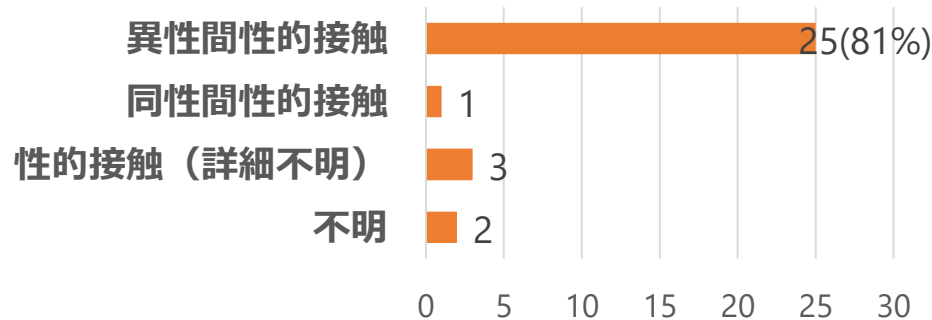
◇ 女性（n=31）



感染経路



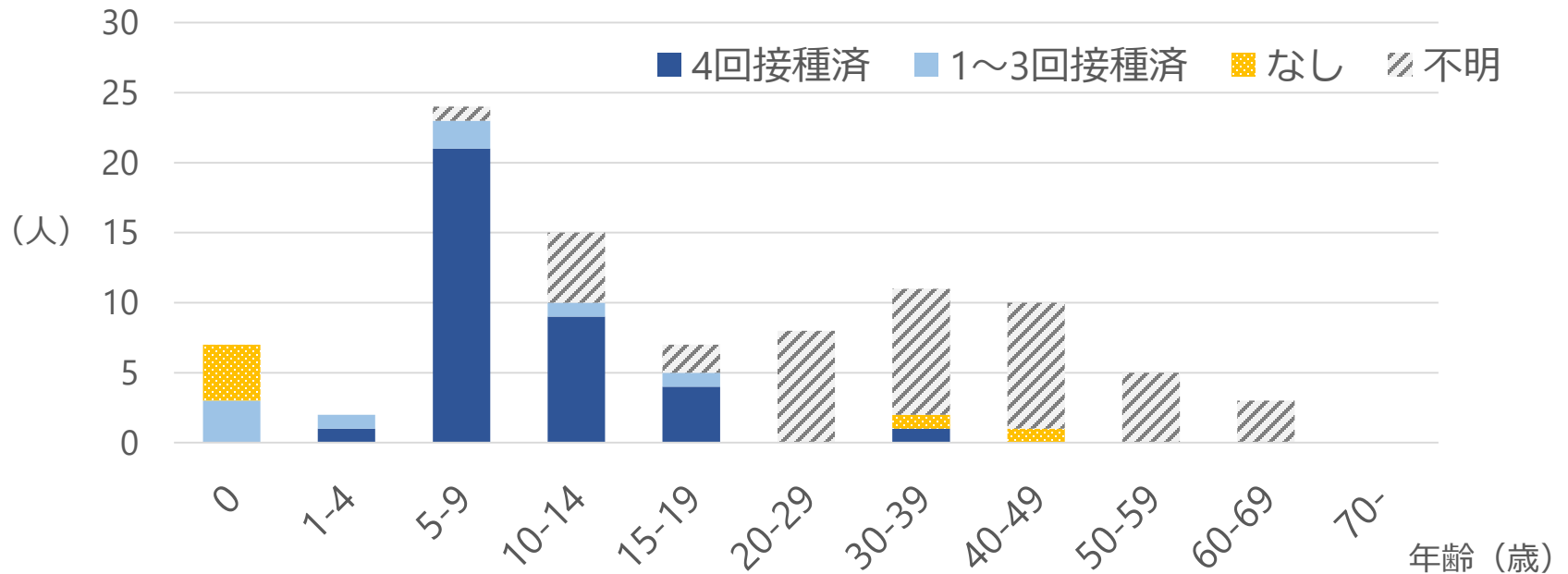
感染経路



- 20代の若い女性患者が増加しており、男女ともに男女間の性的感染が多い

百日咳（5類・全数）

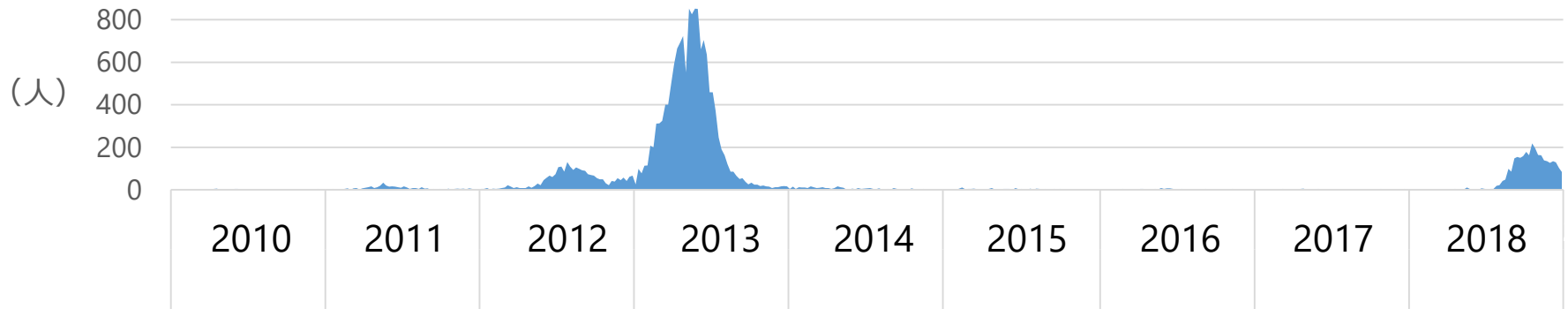
◆ 年代・ワクチン接種歴別患者報告数（岐阜県2018年、n=92）



- 2018年に定点把握（小児科定点）から全数把握に変更
- 5-14歳の77%がワクチン4回接種済み（定期接種完了）
- 追加接種を定期接種とすることについて国で検討中

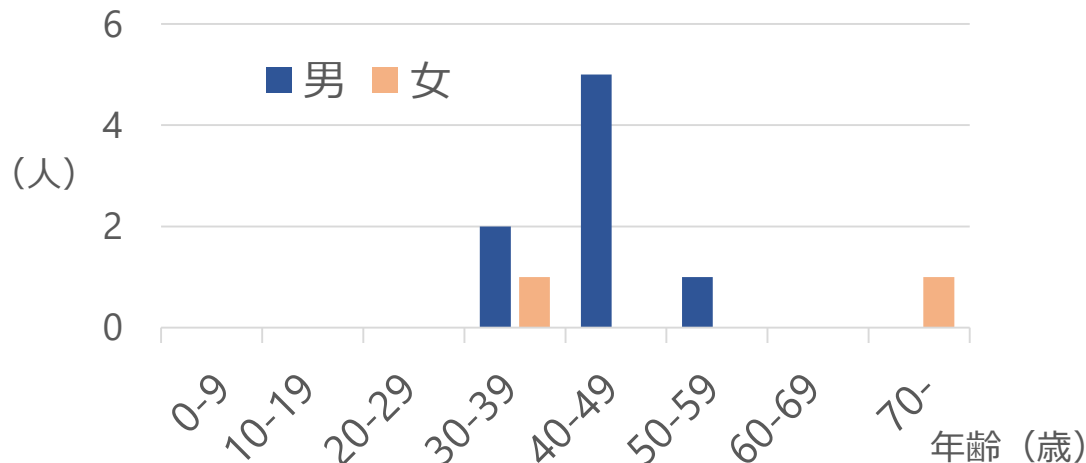
風しん（5類・全数）

◆ 患者報告数 週推移（全国）



- 2018年8月ごろから、30~40代男性を中心に全国的に流行

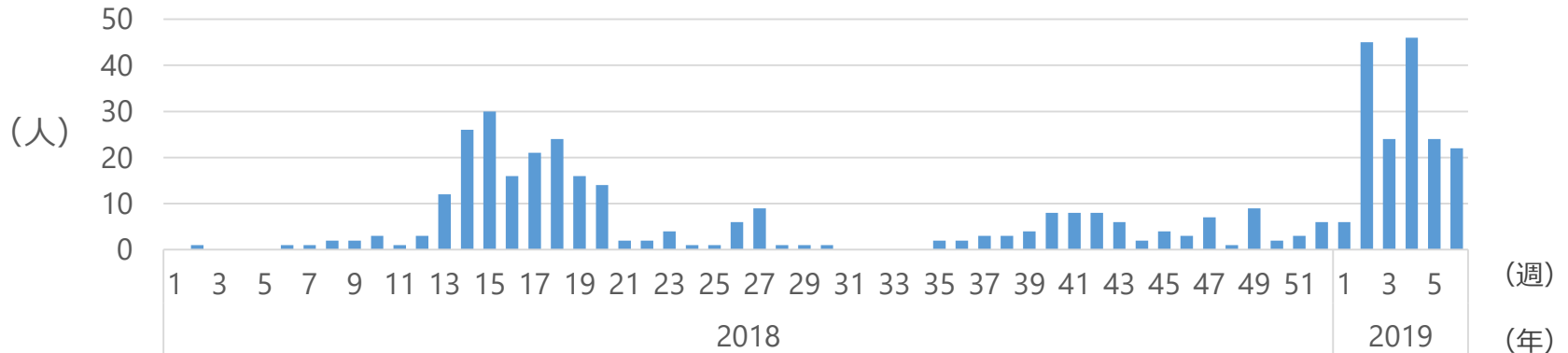
◆ 性・年代別患者報告数（岐阜県2018年、n=10）



- 県内10例中2例は家族、8例は単発例
- 全国の傾向と同様に30-40代男性が多い

麻しん（5類・全数）

◆ 患者報告数 週推移（全国2018年～）



2018年

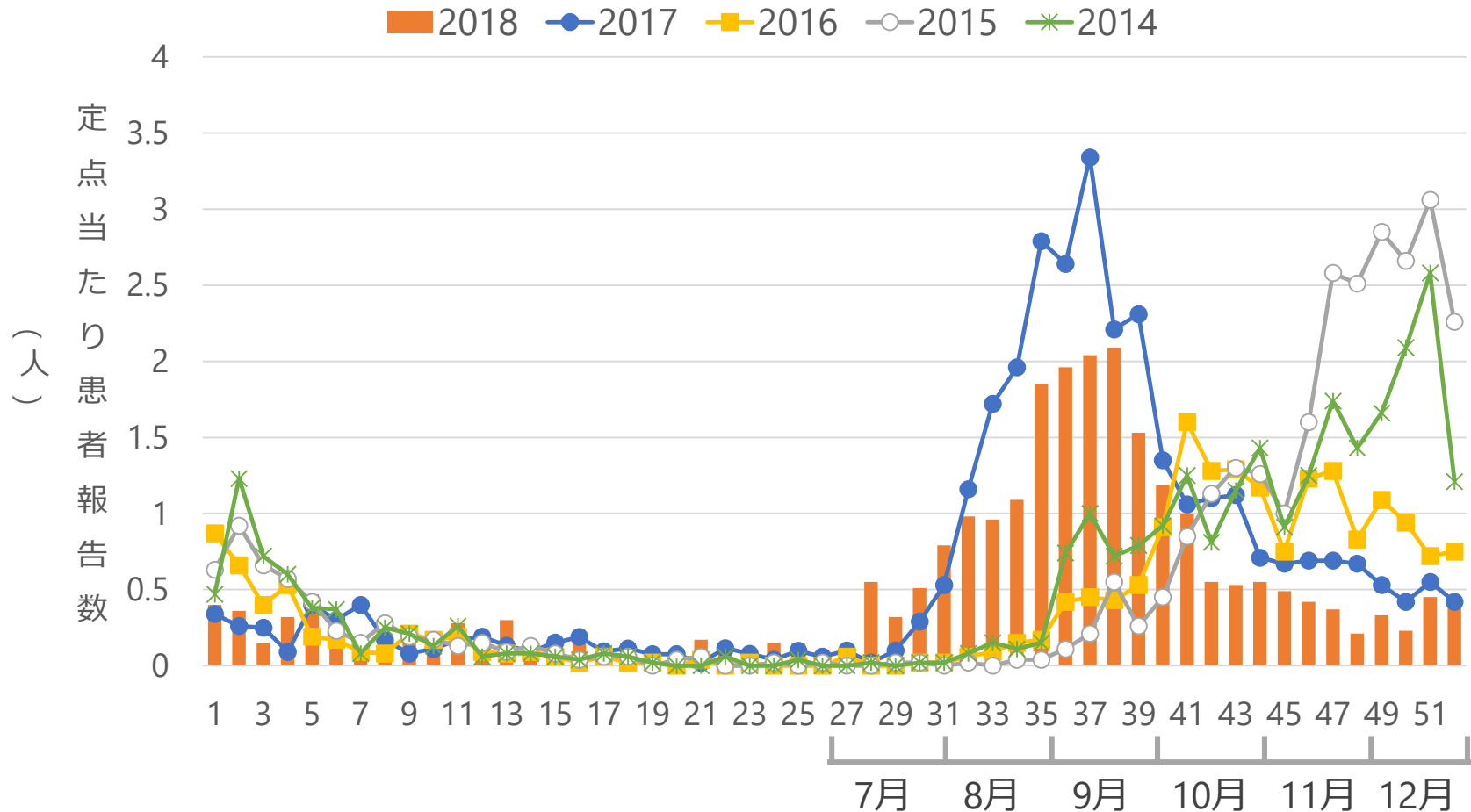
- 3～4月：台湾からの観光客を発端に、沖縄県（99例）、愛知県（21例）などで流行
- 10月：**県内で1例の患者発生**
...国際線（タイ→日本）航空機内で麻しん患者と接触、二次感染例なし

2019年

- 1月：三重県内の宗教団体が開催した研修会参加者が麻しん発症
研修会参加者を中心に感染拡大
県内で5例の患者発生（研修会参加者3例、接触者2例）
- 2月：大阪府で百貨店店員を発端に感染拡大

RSウイルス感染症（5類・小児科定点）

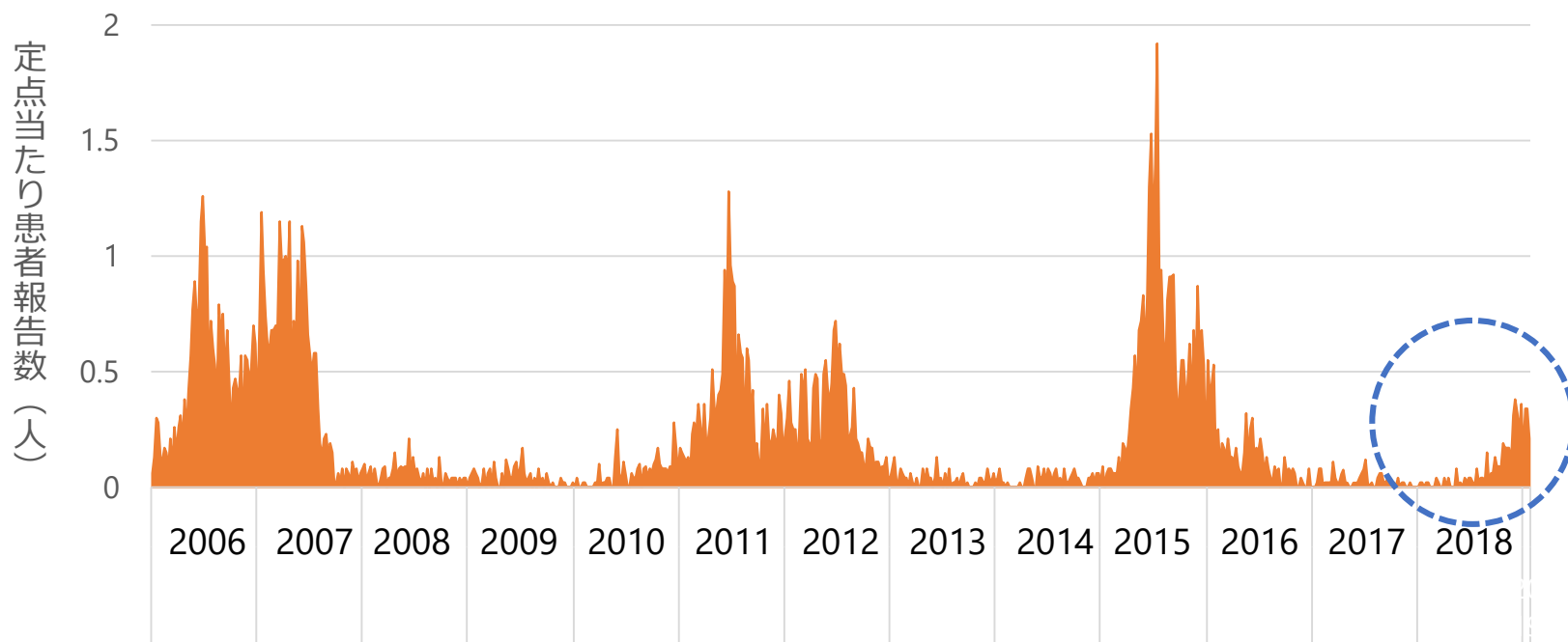
◆ 患者報告数 週推移（岐阜県2018年、53定点）



- 7月から増加、9月にピーク。2017年から流行の時期が早まっている。

伝染性紅斑（5類・小児科定点）

◆ 患者報告数 週推移（岐阜県2018年、53定点）



- 約4年周期で流行
- 県内で2018年秋ごろから、岐阜・西濃地域で患者報告数増加